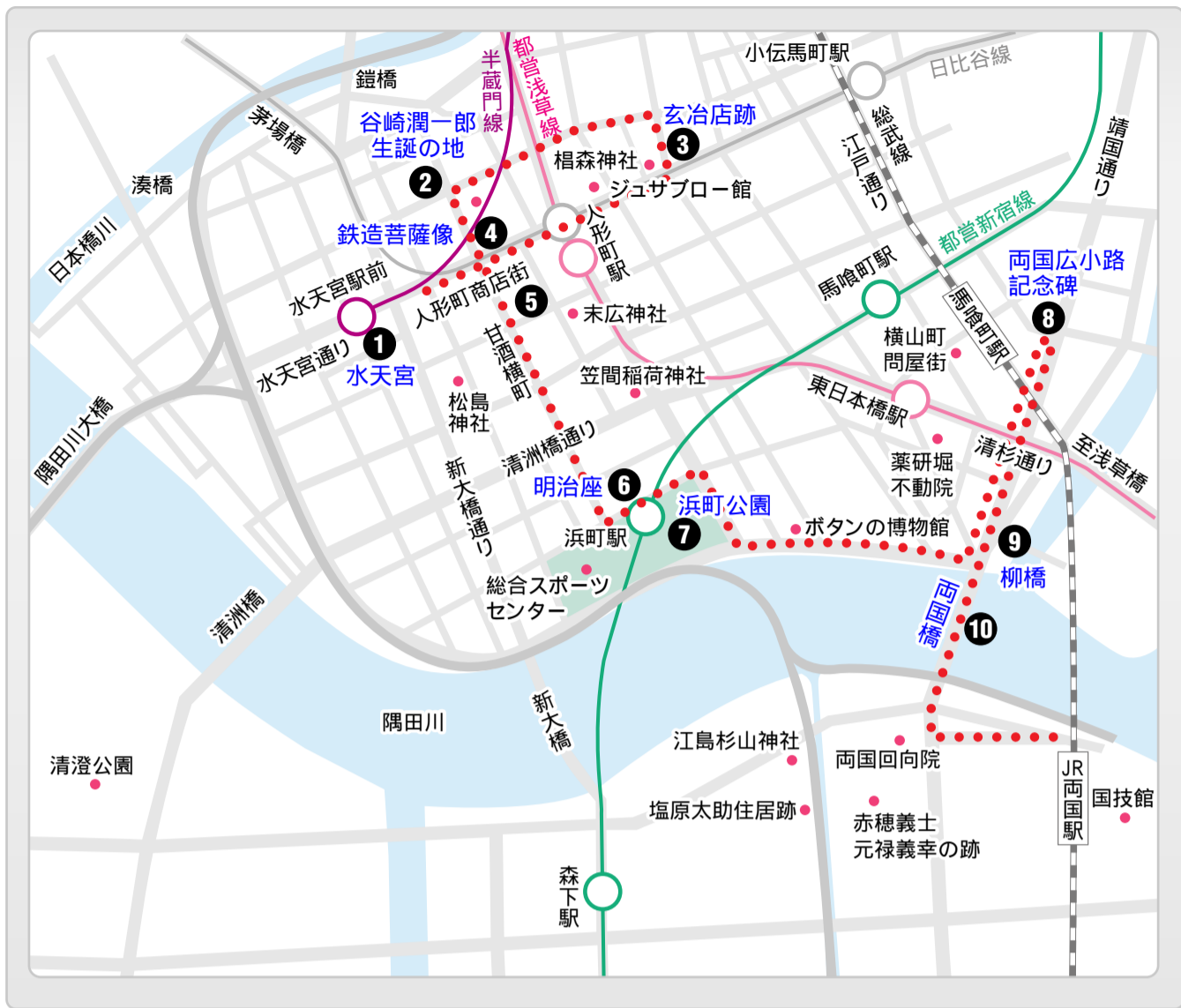


路地の中から三味線の音。なぜかしみじみ・・・。



1 水天宮

芝の久留米藩有馬家上屋敷にまつられていたが、のち明治5年に現在地に分祀された。安産と水難、水商売に御利益があるといわれ、若い二人づれや、赤ちゃん連れの参詣者でにぎわう。縁日は毎月5日。

日本橋蛸殻町2-4-1

2 谷崎潤一郎生誕の地

文豪谷崎潤一郎は明治19年(1886)、この地にあった祖父の家、谷崎活版所で生まれた。「春琴抄」「細雪」「少将滋幹の母」など、数々の名作を発表。耽美な世界に新境地を開いた。夫人松子の揮毫による碑が建てられている。

日本橋人形町1-7-10

3 玄治店跡

この地に住んだ幕府の医官、岡本玄治は、将軍家光が痘瘡を病んだ時、みごとこれを全快させて、一躍その名を高めた。歌舞伎「与話情浮名横櫛」の舞台となり、あだな姿のお富さんの住いですっかり有名になった。

日本橋人形町3-8

4 鉄造菩薩頭

鎌倉時代の作。明治9年、この地に安置された。高さ170cm、面幅54cmの鑄鉄製。鉄造仏としては秀逸。昭和47年には東京都文化財の指定を受けた。御開帳は毎月17日である。

日本橋人形町1-18

5 人形町商店街と甘酒横丁

かつて人形細工の家が多かったことにちなむ人形町の商店街と、横丁の入口に盛況の甘酒屋があったことにその名が由来する甘酒横丁。どちらも下町情緒豊かな温かみのある商店が軒をつらねます。

日本橋人形町1・2丁目

6 明治座

昭和6年、日本橋久松町に「喜昇座」として開場、明治26年に「明治座」となる。戦前は歌舞伎や新派の殿堂、戦後はこれに映画、テレビの人気スターたちの芝居や新喜劇などの自主公演も加わり、バラエティ豊かな出しもので評判。平成5年新喜劇に生まれ変わり演劇文化の殿堂としてオープン。

日本橋浜町2-31-1

7 浜町公園

旧熊本細川藩の庭園であったところを昭和4年に区立公園として開放した。隅田川の展望やサイクリングが楽しめ、浜松グランドもある健康づくり公園となった。面積は約4万5千m²。公園内には、運動場・総合スポーツセンターがある。

日本橋浜町2-59-1

8 両国広小路記念碑

明暦の大火(1657)の教訓から、両国橋に沿う一帯を火除け地に指定し、空き地とした。やがてこれが広小路となり、江戸三大広小路のひとつとして、上野、浅草と並ぶ盛り場に発展。見世物小屋がたちならんだという。

東日本橋2-26先

9 柳橋

神田川が隅田川にそそぐ地点に架けられている。かつては料亭、船宿が川端に灯をうかべ、船遊びを楽しむ人々でにぎわった。その面影は、今も橋際の船宿、佃煮屋に色濃く残っている。現在の橋は昭和4年の架替え。

東日本橋2-27～台東区柳橋1-1

10 両国橋

万治2年(1659)、大火事などの非常時に備えて架けられたが、むしろ納涼、眺望の場所として名高く、両国の川開きは大変なにぎわいを見せていました。橋の名は武蔵国・下総国と結ぶところからきていたとも言われている。江戸四大橋のひとつ。

東日本橋2-28～墨田区両国1丁目